

かいさいよてい
開催予定

2021.10.04.現在

※感染症の状況によって開催予定・時刻が変更する場合があります
参加する前に当会ホームページ新着情報をご確認ください



9月							10月							11月							12月						
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
		1	2	3	4	5					1	2	3	1	2	3	4	5	6	7			1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19	11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26	18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30				25	26	27	28	29	30	31	29	30						27	28	29	30	31		

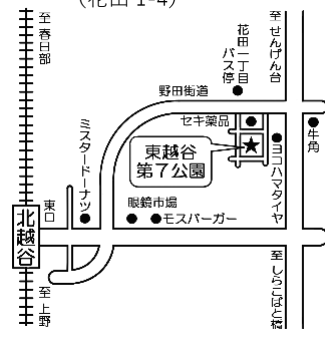
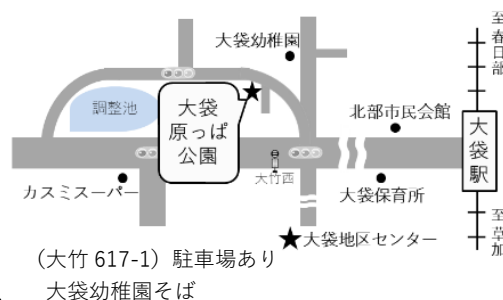
○ 第1(土)(日)を中心に開催
大袋プレーパーク
〈越谷市プレーパーク事業〉
大袋 原っぱ公園 11時~16時

♡ 第3(火)は乳幼児親子の遊び場
ちびころ 〈自主事業〉
大袋 原っぱ公園 10時~12時 協力金:一世帯 300円
雨天:大袋地区センター当日 LINE、facebook で連絡

☆ 第3(土)
東越谷プレーパーク
〈越谷市放課後子ども教室〉
東越谷第七公園 13時~16時
(花田1-4)

🌟 11/28 出張プレーパーク
〈越谷市プレーパーク事業〉
七左第四公園にて実施予定

□ 第1(火)を中心に開催 〈自主事業〉
おちかくプレーパーク
9月 10月 11月:レイクタウン大芝生広場
12月 1月 2月:七左第四公園
※おちかくプレーパークは公園近隣にお住まいの方を対象としています。



会員になってプレーパークを応援しませんか
全国各地で400を超える団体が冒険遊び場づくりに取り組んでいます。越谷にプレーパークをつくる会は、有志の市民が中心となってボランティアで運営しています。会費は活動の大切な資金となっています。越谷市が「遊びあふれるまち」になるよう一緒に願ってくれる方を募集しています。

■正会員 2000円/年
(活動趣旨に賛同し積極的に応援)
■賛助会員 1000円/口 何口でも!
(財政的にサポート)
会費・寄付金は郵便振替でもお受けしております。
00540-2-78897 NPO法人越谷にプレーパークをつくる会

『モットーは 自分の責任で自由に遊ぶ』
普通の公園が禁止事項ばかりなのは、何かあったときに「公園をつくった人が悪い」と管理者の責任を追及する傾向があるからです。子どもが公園で自由に遊ぶには、「事故は自分の責任」という考え方が基本です。

そうしないと禁止事項ばかりが増えてしまい、結果、子どもが自由にチャレンジする機会を奪うことになってしまいます。子どもが思いっきり遊べる場所をみんなの力で作りましょう!

プレーパークって?

「〇〇してはいけません」という禁止事項のない遊び場。何をしてもいい、なにもしなくてもいい。穴掘り、木登り、泥んこ遊びや火を使った遊びなど、子どもたちが「やりたい!」と思ったことを自由にできるように、大人たちが知恵を出し合って運営しています。



プレーリーダーって?

子どもととことん遊び、ありのままを受け入れ、遊び全体に目を配ります。遊びの種を蒔き、遊びを通して子どもたちの相談相手にもなってくれる、親でも先生でもない子どもと対等な大人です。遊びに伴う危険を予測して対応し、遊び場の整備なども行います。

ホームページ ブログ LINE Facebook

NPO 法人越谷にプレーパークをつくる会
メール koshigaya.asobo@gmail.com

プレーパーク 越谷

遊びあふれるまちへ

61号
9月発行
2021



越谷にプレーパーク

をつくる会 **通信**



遊び場からひろがるまちづくり

「こんにちは。かわいいねえ。いくつ?」子どもが小さかった頃、歩いていると地域の方によく声をかけてもらいました。小さな子どもとの暮らしは、こちらの予想をはるかに超え思うようにはいかないのだと思い知った日々。子どもとだけ向き合うことは、何か心がいっぱいになってしまっていました。だから、やさしく笑顔で話しかけてくれる方に出会うたび、ホッと肩の力が抜けたものです。



せて思いっきり遊ぶ子どもたちの姿に気付かされるのがたくさんありました。あたたかな「まなざし」のある場所で、子どもと過ごす時間は心地よく、楽しい! 地域の方やプレーパークを通して、このまちっていいなあと思うようになりました。

その頃、大袋にある原っぱ公園で開催されているプレーパークに出会いました。参加者がいつの間にか自然とおしゃべりできる雰囲気があるのが魅力でした。ここで過ごせば、育児ストレスなど吹き飛ぶのではないかと思ったほどです。プレーパークでは、子どものやりたいことを大人がいろいろと先回りせずに、まずは見守ってみることを大事にしています。そのことも新鮮で、目を輝か



●初めて出会ったママ同士でゆっくりおしゃべり

10/30(土)「遊び場からひろがるまちづくり」と題して講演会を開催します。プレーパークを開催している原っぱ公園周辺の整備事業が進みつつあります。今までプレーパークを知らなかった地域の方にも「プレーパーク」を知っていただけたらと思っています。講師は日本冒険遊び場づくり協会代表の関戸博樹さん。関戸さんのお話を聞くたび「遊び」にはこんな力があるのか!といつもハッとします。今まで気づかなかった視点に、ワクワクするようなおもしろさがあります。プレーパークや子どもの遊び、まちづくりに関心のある方、どなたでもご参加いただけます。こんなまちだったらいいな!をともに作りませんか。

(かなもん)

講演会「遊び場からひろがるまちづくり」

日時 10/30(土) 14時~16時

会場 越谷市北部市民会館 2F 和室

申込み 二次元コード、もしくは

koshigaya.asobo@gmail.com まで



遊び場づくりをともに続けて

プレーパークは当たり前にあるのではなく、みな「思い」でできています。そして遊び場づくりをともに続けていく思いがあって、今のプレーパークはあります！長年プレーパークの運営に携わっているスタッフにその「思い」を教えてくださいました。



みんなでつくる遊び場は、まるで七色の綿菓子をつくるよう

木登りや水遊び、ボール遊びがプレーパークではできて、他の公園ではできないのはなぜ

でしょう？公園に禁止の看板があるからでしょうか？でも守らなくても罰則があるわけでもありません。一番気になるのは自分以外の人の目、そして「苦情」という嫌な思いではないでしょうか？もしも、地域の公園のルールを近隣住民みんなで話し合っただけなら、大人たちの見守りの中で子どもたちが自由に遊ぶ場になるかもしれません。異なった考えや思いを共有し、お互いを理解する場をつくること、それが人と人との豊かなつながりをつくりますが、近年このような場面が少なくなってしまっていると感じます。

私たちが多くの方と共有したい思いは、「子どもが自由に遊べるように見守ろうよ」ということ。共有の仕方は様々で、私たちのように運営に携わる人もいれば、会員となって支えてくれている人もいます。プレーパークの現場で一緒に子どもたちを見守っている人や「プレーパーク面白いから今度一緒に行こう」と友達を誘っている人もいます。

冒険遊び場づくりは多様な人をどんどん巻き込んで七色の綿あめをつくっているような活動だなと思っています。

みんなの少しずつの力が大きな渦になる瞬間が私にとってとても好きです。そしてそれは間違いなく私自身の人生を豊かなものにしています。

(淵野)



子どもが子どもらしくいられる場を

私が『プレーパーク』を知ったのはある講演会でした。その講演会は不登校をテーマにしたものでしたが、何を考えているのか

わからないといった、思春期の子を持つ親たちにも響きました。「子どもの行動にはすべて意味がある。子どものシグナルに耳を傾け、信じて待つ」と。その講師が「ありのままを受け入れる。そんな遊び場が世田谷(羽根木)にあるんですよ。自分を偽らずにいられる場、そんな遊び場が各地にあるといいですね。」と言ったのでした。25年も前でしょうか。

ありのままを受け入れることも信じて待つことも私には容易なことではなく、右往左往しながら現在に至っていますが、その間に越谷のプレーパーク運営に関わるようになりました。そこにはひとりひとりを受けとめ、子どもが子どもらしくいられる場を大切に思う人たち、見守る人たちがいます。自分も地域で子育てをする一員でありたいと思います。

(星野)



十代の子どもたちにも居場所を

初めて参加したのは子どもが2歳の時。木工や、火を使っている遊びなど、他の公園ではできない遊びができることが魅力でした。自分の子以外と遊べるのも、また子どもが同学年以外の子とかかわったり、親以外の大人ともかかわったりすることも魅力でした。

小学校の頃は習い事などでなかなか行けなくなりましたが、時々行くと運営の方が変わらずに親子共に受け入れてくれました。子どもが安心して遊べていると感じられる居場所でした。

子どもが中学生になってくると思春期の子ども達が学校と塾以外の場所で過ごせる(遊べる)ところがあればいいのに、そう思うようになりました。その頃スタッフとして関わりはじめ、そんな居場所が越谷にできるようになって続けています。さらに想いは広がって「孫と一緒に遊べる所」です^^

(川村)

新しいプレーリーダーを紹介します

こんにちは！4月から新しくプレーリーダーになったあんちゃんです！越谷市のおとなり、吉川市出身です。プレーリーダーになって5ヶ月。いつも子どもたちが元気に遊び回っているのを見て幸せです(^^)子どもって純粋でキラキラして楽しい！みんなそれぞれいいところある！と思っていつも接しています！子どもは自由に遊べるので、大人のみなさまざまプレーパークではのんびりしたり遊んだり自由にいきましょう！これからよろしくお願いします！安



はじめまして！今年度からプレーリーダーとして関わることになりました！人生初のプレーリーダーなので知らない事ばかりですがよろしくお願ひします！いつもは保育園と介護施設の事務員として働いています！これといって得意な事はありませんが考えたり、やった事ない事をしてみたい、できるかわからない事にチャレンジしたりするのが好きです。一緒に楽しく過ごせたらと思います！

大野 博之

東越谷プレーパーク



8月の東越谷プレーパークで大人気だったのは割りばし鉄砲。見本を見ながら、みんなで教えあって作っていきます。「みんな」の中には、子ども達だけでなく、お父さんお母さんがいたり、中学生やボランティア大学生がいたり。

大人が子どもに教えるのではないのです。口々に「そのやり方教えて」「あ、それいいね」「私、色かわいくする」とおしゃべりしながら作っています。年代性別いろんなものを超えて、それぞれが夢中になっていました。

そして自分なりにカスタマイズして、割りばしマシンガン、割りばしバズーカへとグレードアップ！標的は、最初紙コップだったのが、木についたセミの脱け殻を狙ったりして気分はまさにスナイパー。今の時代シューティングゲームはたくさんあります。でも自分の手で試行錯誤して作った割りばし鉄砲で、風にゆれるセミの脱け殻を打ち落とすというのはゲームでは味わえない楽しさだと思うのです。

リアルな手作りの感覚、リアルな人との関わり、リアルな感動、それらはプレーパークが作り出す魔法のような瞬間だと思っています。今のコロナ禍だからこそ、外遊びは子ども達にとって、原体験になっていくのではないのでしょうか。(クリボー)